



哲学・思想論集

第17号

平成3年度

筑波大学 哲学・思想学系

目次

チョンシー・ライトについて——プラグマティズムとダーウィニズム再考——	嶋田厚	一
デイルタイの心的現象論——「プレスラウ草稿」をめぐる——	水野建雄	一三
デカルトと言語——二元論、普遍言語、ライプニッツ(上)	谷川多佳子	三一
『成唯識論』の伝える安慧の三性説について	竹村牧男	四七
プロティノスの思想の基本構造——その探究の試み(一)——〈 <i>avabavēn</i> 〉	田子多津子	七三
啓蒙のパラドックスと道徳…… ——ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法』におけるカント批判をめぐる——	木村勝彦	九五
Chang Tsai (張載) and the Lankavatara (入楞伽經)	Carl B. BECKER	一三二
DIE ONTOLOGISCHE PHASE DER STRUKTURONTOLOGIE	Kiichiro TAKEMURA	一五四
Zu Rombachs Auffassung von Zusammenhang der Struktur und Relationalität		

『哲学・思想論集』編集規定

1. 本誌は、筑波大学哲学・思想学系の研究紀要として、毎年度一回発行する。
2. 本誌の執筆者は、本学系の構成員とする。
3. 本誌は、哲学・思想に関する論文で、編集委員会の責任において審査されたものを掲載する。
4. 編集委員会は、哲学・思想学系長、哲学・思想研究科長、編集委員2名によって構成し、別に編集幹事1名をおく。
5. 編集委員会は、論文の審査・編集に際し必要な場合には、編集委員以外の教官の意見を求めることがある。

哲学・思想学系構成員一覧（平成4年1月現在）

荒木美智雄	池上 良正	上笹 恒	河上 正秀	川崎 信定
○木村 勝彦	◎工藤 喜作	◎笹澤 豊	嶋田 厚	◎竹村喜一郎
竹村 牧男	田子多津子	谷川多佳子	辻村 誠三	奈良 博順
野田 茂徳	◎野町 啓	広神 清	廣川 洋一	藤田 普吾
別府 淳夫	堀池 信夫	松丸 啓子	水野 建雄	

〔五十音順：◎編集委員 ○編集幹事〕

編集 『哲学・思想論集』編集委員会
発行 〒305 茨城県つくば市
筑波大学哲学・思想学系

印刷 筑波印刷情報サービスセンター協同組合
〔適宜変更〕
平成4年3月20日 印刷
平成4年3月28日 発行
(非売品)

STUDIES IN PHILOSOPHY

No. 17

1991

INSTITUTE OF PHILOSOPHY
UNIVERSITY OF TSUKUBA

CONTENTS

Atushi SHIMADA : Channcy Wright: His Darwinism and Pragmatism Reconsidered	1
Tatsuo MIZUNO : W. Diltheys Phänomenologie des Psychisches—zu "Breslauer Ausarbeitung"—.....	13
Takako TANIGAWA : Descartes et la question de langage au XVIIe siècle —dualisme, langue universelle, Leibniz (I).....	31
Makio TAKEMURA : Sthiramati's Tri-svabhāva doctrine as Seen in <i>Cheng wei shi lun</i>	47
Tazuko TAGO : An Attempt to Investigate the Fundamental Structure of Plotinus' Thought (1)— <i>ἀναβαίνων</i> —.....	73
Katsuhiko KIMURA : Paradox der Aufklärung und Moral—Zum Diskurs über Kant in Horkheimers und Adornos „ <i>Dialektik der Aufklärung</i> “—	95
Carl B. BECKER : Chang Tsai (張載) and the Lankavatara (入楞伽經)	132
Kiichiro TAKEMURA : DIE ONTOLOGISCHE PHASE DER STRUKTURONTOLOGIE Zu Rombachs Auffassung von Zusammenhang der Struktur und Relationalität	154